

文化協会でのたすけ合い

今年、1872年に岩倉具視を特命全権大使とする使節団が米国を訪問してから150周年。使節団訪問を契機に、同年、ニューヨークに日本領事館が設置された。150周年を記念してセントラルパークウエスト通りを南下する「ジャパンパレード」が5月14日に開催される。

今年はまだ、アメリカから日本に野球が伝えられてから150周年とのこと。ジャパンパレードの前夜祭として、ニューヨーク・メッツの本拠地シティフィールドで試合開始前に「ジャパニーズ・ヘリテージナイト」が行われる。野球伝来150周年を記念した、ニューヨーク・メッツ主催の親日イベントで、日本の魅力を紹介するイベントが行われる。

日系コミュニティを盛り上げる嬉しいイベントが続くが、ニューヨークでは治安が悪化しつつあり、地下鉄やショッピングモールでは、銃の乱射事件が発生したり、アジア人をねらう増悪犯罪が横行している。世界ではウクライナにロシアが侵攻、状況は悪化の一途をたどっており、さまざまな事が限界にきているように感じる。今まで世界を治めてきた価値基準はもはや通用せず、互いにたて合い、たすけ合う陽気ぐらしのスタンダードがこれからはますます大切になってくることが感じられる。

そんな中、文化協会を通して行われているささやかな助け合いの動きを紹介する。

ウクライナ支援チャリティ

4月8日、インターナショナル・アートアライアンスによるウクライナを支援するチャリティイベントが文化協会で開催された。この団体はここ数年毎年文化協会で開催している芸術家団体で70名以上のアーティストが所属している。私はロシア人のグループだと思っていたが、実際のところアーティストの内訳はウクライナ人が3分の2、後の3分の1は、ロシアを含む旧ソ連の国々の人々で構成されている。

当日は、この団体以外にも演奏家、歌手、詩人などが集結し大勢の参加者で賑わった。ウクライナ国家のピアノアレンジ曲や詩の朗読、オペラに加え、ロシアの曲も披露された。演者も観客も一体となり、一日も早く平和が戻るようにと祈りの夜となった。政治の上では対立しているが、民間のレベルでは協力し助け合っている姿が印象に残った。

後日インターナショナル・アートアライアンスの会長から下記のような感謝の手紙をいただいた。

親愛なる天理チームの皆様！ ウクライナ支援のチャリティにご協力いただき心の底から感謝します。皆様のご尽力がなければこのプロジェクトは実現していませんでした。チャリティナイトの収益はオンラインも含め、絵画の販売、コンサートチケット、ジュエリーや書籍の販売で合計19,150ドルにもなりました。天理の皆様をはじめ、参加してくれたアーティスト、ボランティア、来場者の方々のお陰でウクライナに支援金を送ることができます。ありがとうございました。

普段からの繋がりや文化協会のようなスペースがあったからこそ実現できたのだと思う。

子育て交流会「Joy Café (ジョイカフェ)」

3月12日、新型コロナウイルスにより休止していた保護者のための子育て交流会「Joy Café」が内容も新たに練り直され、対面とオンラインのハイブリッド式で再スタートした。教内外からトークゲストを招き、前半は講義、後半は講師を交えてお茶やお菓子をいただきながら、茶話会形式で育児や教育などの



相談、情報交換の場を提供している。毎月1回の開催でこれまで下記のような内容で会が持たれている。

第1回「免疫の強い子どもの育て方」

第2回「大学への道のり」

第3回「NY小中学校の教育事情」

参加者からは「初めて聞くことも多くすごく参考になった」「普段、意見交換する機会があまりないので、貴重だった」などの声が聞かれる。

この「Joy Café」の時間に合わせて、別室でゲームや音楽を通して参加者の子供さんを預かる「てんりこどもくらぶ」もスタートした。毎回文化協会のスタッフが熱心に練り合い、力を合わせて会を運営している。

2年後の2024年6月には、アメリカ伝道庁の創立90周年記念祭が開催される。それに向けた活動指針として、地域社会コミュニティの人たちへの繋がりや働きかけが重視されている。この「Joy Café」や「てんりこどもクラブ」を通して、さらにコミュニティへの繋がりや深められることを楽しみにしている。

天理チェンバー・プレイヤーズ結成

文化協会を拠点に活動する室内アンサンブル「天理チェンバー・プレイヤーズ (TCP-NYC)」が、新型コロナウイルスの節を乗り越えて、この度、新たに結成された。文化協会のクラシック音楽のディレクターであるアルバート・ロット氏が中心となり、マンハッタン音楽院、マネス音楽院、ジュリアード音楽院の著名な演奏家、教授、卒業生によって構成されている。演奏の大家とこれからの若き演奏家がお互いに協力し合い、世代、ジャンル、背景の異なるアーティストが力を合わせコラボレーションする。

シリーズの第1回目として、5月22日に、小説家でもあるエリザベス・フランク教授とのコラボ「音楽とスピーキング・ワード」が開催される。こうした催しを通して、文化協会があるグリニッジビレッジのコミュニティが新たな憩いの場と優秀な人材の育成の場となることを期待している。